# 文明の交差点における歴史の現在

## ― ボルガル遺跡とスヴィヤシスク島の「復興」プロジェクト ―

櫻　間　　瑛

ヨーロッパで最大の河とされるヴォルガ河は、しばしば「ロシアの母なる河」と呼ばれている。しかし歴史的に見ると、この河の流域では東西の文化・文明が出会い、拮抗していた。そして現在でも、中下流域には様々な民族が居住し、ロシア連邦の多民族性を象徴する空間となっている。

ソ連崩壊前後から、各民族が伝統文化や宗教の復興を求めて積極的な活動を行ったことで、多民族国家としてのロシアに対して内外から注目が集まってきた。その中でも、ヴォルガ中流域に位置するタタルスタン共和国は、いち早く大きな自治を獲得し、積極的にタタール語の地位向上などにも努めたことで、多くの論者によって取り上げられてきた。

そこで特に注目されてきたのは、チェチェンとは異なり、成功裏に進めてきた主権獲得のプロセス[(1)]や、比較的穏健とされるタタールのイスラームのあり方[(2)]であり、教育と言語復興との関係[(3)]などであった。これらの論考では、タタルスタンが、タタールの民族文化復興に積極的に取り組みつつ、ロシア人を始めとする他の民族にも配慮することでバランスをとることに成功していることが強調された。実際にタタルスタン政府自体も、多民族・多宗教の共存の場としての自己を積極的にアピールしている。その象徴として、イスラームのモスクとロシア正教の教会が並び立ち、世界遺産ともなっているカザン・クレムリンがしばしば取り上げられている。[(4)]

そのタタルスタンが、近年復興に力を入れ、カザン・クレムリンに続く世界遺産候補としているのが、ともにヴォルガ河のほとりに位置しているボルガル遺跡とスヴィヤシスク島である。ボルガル遺跡は、かつてこの地域で興隆を誇ったヴォルガ・ブルガール国家の首都であり、東西文化の交流の場となると共に、この地域で最初にイスラームを受容した地ともな

---

1 Sergei Kondrashov, *Nationalism and the Drive for Sovereignty in Tatarstan, 1988-92: Origins and Development* (Basingstoke: Macmillan, 2000)；塩川伸明『ロシアの連邦制と民族問題（多民族国家ソ連の興亡III）』岩波書店、2007年；Katherine E. Graney, *Of Khans and Kremlins: Tatarstan and the Future of Ethno-federalism in Russia* (Lanham, MD; Plymouth: Lexington Books, a division of Rowman & Littlefield, 2009).

2 Hilary Pilkington and Galina Yamelianova eds. *Islam in Post-Soviet Russia: Public and Private Faces* (London: RoutledgeCurzon, 2003); David C. Lewis, "Ethnicity and Religion in Tatarstan and the Volga-Ural Region," *Central Asian Survey* 16, no.2 (1997), pp.215-236.

3 Howard Davis, Philip Hammond, and Lilia Nizamova, "Media, Language Policy and Cultural Change in Tatarstan: Historic vs. Pragmatic Claims to Nationhood," *Nations and Nationalism* 6, no.2 (2000), pp.203-226; Helen Faller, *Nation, Language, Islam: Tatarstan's Sovereignty Movement* (Budapest-New York: Central European University Press, 2011).

4 Helen M. Faller, "Repossessing Kazan as a Form of Nation-building in Tatarstan, Russia," *Journal of Muslim Minority Affairs* 22, no.1 (2002), pp.81-90; Nadir V. Kinossian, "The Politics of the City Image: the Resurrection of the Kul-Sharif Mosque in the Kazan Kremlin (1995-2005)," *Architectural Theory Review* 13, no.2 (2008), pp.188-205.

**図 1：カザン、スヴィヤシスク、ボルガル**

った。一方、スヴィヤシスク島の修道院群は、イヴァン雷帝率いるモスクワ大公国軍が、カザン・ハン国に進出する際にその出城を築いた場所であり、後にはこの地域のロシア正教の中心となった。近年、この 2 つの史跡はタタルスタンの初代大統領M.シャイミエフによって創設されたタタルスタン共和国歴史文化遺産復興財団 Республиканский фонд возрождения истории и культуры Республики Татарстан によって、重点的に復興が進められており、大規模な改修などが行われている。

このボルガルとスヴィヤシスクは、今日のタタール／タタルスタンにとって、A.スミスが言うところの「文化的資源」ということができる。すなわち、「ナショナル・アイデンティティの保証人であり、案内人」としての機能を果たすことが期待されているのである。(5) この「復興」プロジェクトでは、タタルスタンがイスラーム／タタール文化とキリスト教／ロシア文化の聖地を保護し、その平和裏の共存を達成していることをアピールすることが目的となっている。特にボルガルについては、タタールの歴史のシンボルとして利用することも目指されている。

同時に、これらの開発を通じて、観光地としての価値を高めることも志向されている。瀬川昌久の言うように、今日の世界においては「民族文化」や「伝統文化」が観光開発に利用されており、様々な民族の「芸能、工芸、建築、儀礼その他が、自国内の多数者や他地域からの旅行者に対して組織的にディスプレイされる」ようになっている。(6) ボルガルとスヴィヤシスクの再開発も、そうしたディスプレイの地となることが目指されている。

しかし、宇高雄志が指摘するように、「多様な価値が並存する社会において、統合された、ひとつの歴史を描写することは容易ではな」く、「ことなる視点場からの歴史の描写の密度は多様であり、多元的」である。(7) ボルガルとスヴィヤシスクは、ロシアとタタールの支配／被支配関係、またロシア正教会とイスラームの歴史的な対立と密接に関連している。そのため、「復興」プロジェクトに対しても様々な意見が飛び交い、議論を呼んでいる。

本稿では、この 2 つの史跡の「復興」プロジェクトの経緯と、それに向けられた視線に注目することにより、現在のヴォルガ河畔において、少数民族としてのタタールがどのような自己主張を行っており、いかなる葛藤があるのかを明らかにする。そして、多宗教・多文化の共存が抱える困難と、そこに見られる歴史のアクチュアリティについて考察したい。

---

5　アントニー・D・スミス（一條都子訳）『選ばれた民：ナショナル・アイデンティティ、宗教、歴史』青木書店、2007年、335頁。

6　瀬川昌久「序」瀬川昌久編『文化のディスプレイ：東北アジア諸社会における博物館、観光、そして民族文化の再編（東北アジア研究センター叢書第8号）』東北大学東北アジア研究センター、2003年、1 頁。

7　宇高雄志「多元文化社会における文化遺産マネジメント：マレーシアにおける世界遺産登録をめぐって」西山徳明編『文化遺産マネジメントとツーリズムの持続的関係構築に関する研究（国立民族学博物館調査報告61）』吹田、国立民族学博物館、2006年、104頁。

以下、ボルガルとスヴィヤシスクの成立から、ソ連崩壊前後までの歴史を概観した後、この2つの史跡が、ソ連崩壊以降の民族／宗教復興の流れの中で、どのように位置づけられているのかを示す。それを踏まえて、シャイミエフによって始められた「復興」プロジェクトの概要を紹介する。そして、このプロジェクトに関して、ロシア語／タタール語の新聞、雑誌などで展開された議論を整理し、ヴォルガを舞台とする多民族／多宗教国家としてのロシア／タタルスタンの実相の一断片を明らかにしたい。

## 1. ボルガルとスヴィヤシスクの勃興

古代より、中央アジアのステップ地域から東ヨーロッパ平原にかけては、遊牧騎馬民族による勢力争いが続いた。7 世紀から10世紀にかけ、ヴォルガ河の下流から中流にかけての地域に隆盛を誇ったのは、テュルク系民族の王朝とされるハザールであった。しかし 9 世紀後半より、キエフ大公国の攻撃などにより衰退が始まり、ヴォルガ中流域では、やはりテュルク系遊牧民のブルガールが国家としての自立を果たした。

このブルガール国家は、ヴォルガ河とカマ河の合流点を少し下ったところに都ブルガールを築いた。9 世紀にはイスラームを受容して、アラビア系、イラン系の王朝との積極的な交流をもち、ヴォルガ河を通じての、ユーラシアにおける東西交易の中心の一つをなすようになった。

その後、ウラジーミル公国を筆頭とするスラヴ系国家の圧力を受けるようになると、徐々に勢力を殺がれ、首都もブルガールから隣接するビリャルに移すことを余儀なくされた。さらに13世紀になると、東からモンゴル帝国の侵攻を受けるようになり、王朝内部の争いと相俟って、その支配下に収まることとなった。その後、ジョチ・ウルスの勢力下のいくつかの公国に分裂し、一定の自治を行うようになる。15世紀にジョチ・ウルスの内紛が激化すると、ヴォルガ沿岸のカザンを首都とするカザン・ハン国が自立を果たし、ブルガールもその領内に収まった。ブルガールは引き続き東西交易の中心をなし、この地域のイスラームの中心とされた。[8]

しかし、モスクワ大公国が徐々にその勢力を強め、イヴァン雷帝が皇位に就くと東方への進出が本格化した。そしてカザン攻略を目指したモスクワ大公国の軍隊は、カザンからヴォルガ河沿いにおよそ30キロ遡った丘陵地に出城を建設した。建築に当たっては、ヴォルガ河のはるか上流、ウグリチで加工した木材を水路で搬送するという、豊臣秀吉の一夜城を彷彿とさせる方法が取られた。スヴィヤシスクと名づけられたこの砦を拠点として、1552年にイヴァン雷帝率いるモスクワ大公国軍はカザンを制圧することに成功した。これ以降、カザンがロシア帝国による東方進出の拠点となる。

1555年にカザン主教区が創設されると、スヴィヤシスクには修道院が創設され、主教区内でも最も影響力の強いものとなった。さらに18世紀半ば、エリザベータ女帝のもと、現地諸民族に対するロシア正教への改宗政策が強化されると、その拠点として新受洗者取扱局 Новокрещенская контора がこの修道院内に設立された。これは、税制面での優遇や、金銭

8 *Полубояринова М.Д.* Торговля Болгара // Город Болгар: культура, искусство, торговля / Под ред. П.Н. Старостина, М.Д. Полубояриновой, Р.Ф. Шарафутдинова. М., Наука. 2008. С. 89.

図 2：ボルガルの大モスク跡（左）とウスペンスキー教会（右）

の授与・贈り物といった経済的な利益を見返りとして宣教活動に取り組み、数万人単位のロシア正教への改宗者を獲得することに成功した。しかしこの改宗は、しばしば表面的なものに留まり、実生活においては以前の通りイスラームの戒律に従った生活を送っている者がほとんどであった。また、改宗を行わなかった人々に重税を課すことになり、多くの現地諸民族の反発を招くこととともなった。そのため、エカテリーナ 2 世によって改宗政策に転換がなされ、新受洗者取扱局も廃止されることとなった。(9) もっとも修道院自体は、莫大な資産を有し、当時のカザン県で最も強大な修道院であり続けた。

一方ブルガールは、ロシア帝国の支配下になった後、スパスクと改名されたが、その地理的条件からしばらくは商業の中心としての地位を維持した。さらにここは、古代の歴史を物語る遺跡としての価値でも注目を集めるようになった。1722年、カザン県を行幸したピョートル 1 世は、この遺跡群を目にし、保存と調査を行うことを命じた。その後、宗務院によりロシア正教の教会が建てられるが、考古学調査も引き続き進められた。エカテリーナ 2 世は、遺跡のさらなる研究を指示し、後にはカザン大学の研究者たちがその調査を遂行した。19 世紀にはカザン大学に設置された考古・歴史・民族学協会により、その主要な研究対象と位置付けられた。(10)

同時に、ブルガールの遺跡は地域のイスラームの中心としての位置付けも維持し続けた。カザンを中心に居住するムスリム・タタールたちは、ブルガールを自らの祖先と考えた。そして、ブルガールが7世紀にムハンマド自身の手によってイスラームに改宗したとし、その子孫である自分達が正統なムスリムであると主張した。さらに、多くのムスリム聖人がこの地に埋葬されたという伝説も広まった。遺跡周辺にあるとされたその墓標は、タタールのみならず、ロシア及び中央アジアのムスリムによる巡礼の対象となった。(11) 特にブルガールには、イスラームの宣教のために訪れたムハンマドの弟子（サハーブ）が、そのまま滞在して埋葬されたとされる場所があり、巡礼の中心をなした。(12)

このようにブルガールとスヴィヤシスクは、帝政期を通じてイスラーム／ロシア正教というこの地域に拮抗する 2 つの宗教の中心として重要な位置を占めてきた。しかし革命以降、ボリシェヴィキ政権は無神論を標榜し、教会への圧力を強めていった。スヴィヤシスクの修道院は、この地域の中でも帝国政府／正教会権力と最も密接に結びついたものとして真っ先に攻撃の対象となった。修道院長は赤軍によって裁判抜きで処刑され、建物も接収されて、

9 *Иславев С.Г.* Православные миссионеры в Поволжье. Казань, 1999.

10 Robert Geraci, *Window on the East: National and Imperial Identities in Late Tsarist Russia* (Ithaca and London: Cornel University Press, 2001), pp.180-181.

11 Geraci, *Window on the East*, pp.184-185.

12 Allen J. Frank, *Islamic Historiography and 'Bulghar' Identity among the Tatars and Bashkirs of Russia* (Leiden, Boston, Köln: Brill, 1998), p.198

強制収容所などとして使用された。その後、ウスペンスキー修道院は精神病院として使われることとなり、洗礼者ヨハネ女子修道院はスヴィヤシスク歴史建築博物館保護区 Свияжский историко-архитектурный музей-заповедник に委譲された。その後、建築様式などに注目が集まり、連邦規模での復旧の支援が進められた。

一方、ブルガールの遺跡に対しては、考古学的な関心から積極的な発掘調査が、カザンのみならず、モスクワの研究者らの手によってもなされるようになった。特に第 2 次世界大戦前後より、タタールとチュヴァシの間で、ブルガールの正統な子孫としての位置付けをめぐって激しい論争が繰り広げられるようになると、この地の発掘調査や碑文の解読などにも一層の関心が寄せられた。[13] さらに1969年には、隣接するビリャルの遺跡と合わせて、タタール自治共和国閣僚会議により、国立ボルガル[14] 歴史建築博物館保護区 Болгарский государственный историко-архитектурный музей-заповедник が設立された。この博物館は、特に1980年代以降、ヴォルガ・ブルガール時代を始めとする遺物の収集・保存などにおいて、中心的な役割を担うようになった。また、ここは学術的な関心の他に、タタールの祖先の繁栄の地として、観光地としても知られるようになった。

1950年代半ば、ヴォルガ河をやや下った現在のサマラ州で、クイビシェフ・ダムが完成すると、河の水位が上昇し、河岸の広い範囲で影響が出た。ボルガル遺跡周辺では、近隣の市街地が移動し、遺跡群が孤立することとなった。さらにスヴィヤシスクでは、周囲が水没してしまい、修道院跡地を中心とする集落が文字通り孤島となってしまった。

このようにソ連期を通じて、ボルガルとスヴィヤシスクは、宗教的な役割を奪われ、史跡／観光地としての意味合いを強めていった。しかしソ連末期になると、宗教復興や民族史の見直しが進められるようになり、この 2 つの史跡も新たな位置づけを与えられてゆくこととなる。

## 2. ボルガルとスヴィヤシスクの現在

ペレストロイカが始まると、それまでのイデオロギー的な制約から解放され、ソ連全土で諸民族の文化復興が活発となり、ロシア正教やイスラームを始めとする諸宗教の復興も顕在化するようになった。タタールの間では、特に歴史家などの人文系の研究者やジャーナリストを中心にして、民族の歴史の見直しやタタール語の地位向上を求める声が強くなった。さらに、人々の間でムスリムとしての自覚が高まり、各地でモスクの再建や新築が相次いだ。この流れの中でボルガルは、タタールにとっての父祖の土地、イスラームの中心として注目を集めることとなった。

帝政期以来の考古学調査は現在も継続し、タタルスタン科学アカデミーの歴史学研究所附

13 Frank. *Islamic Historiography and 'Bulghar' Identity*. pp.178-187; Mirkasym A. Usmanov, “The Struggle for the Reestablishment of Oriental Studies in Twentieth-Century Kazan,” in Michael Kemper and Stephan Conermann eds., *The Heritage of Soviet Oriental Studies* (London: Routledge, 2011), pp.174-176.

14 ブルガールは、帝政期にスパスクと改名された後、1926年にはソ連内の別の地名との混同を避けるため、スパスク・タタールスキーと改名され、さらに1935年にはクイビシェフとその名を変えた。一方、遺跡の名称にはタタール語の発音により近いボルガルが採用され、1991年には町の名前もボルガルへと変更された。

属考古学研究センターが中心となって、積極的に研究が進められている。

また宗教的な自覚の高まりを反映して、タタールの間では、ボルガルの墓標への巡礼が活発となった。その墓標とされる石には、古来の習慣に倣う形でコインが置かれ、健康祈願などが行われている。

さらに、ここではタタールのイスラーム回帰を象徴する行事も開催されるようになった。1989年は、イスラーム暦に換算して、ヴォルガ・ブルガールがイスラームを受容して1100周年とされた。それを記念してソ連ヨーロッパ部及びシベリア・ムスリム宗務局[15]のムフティー（宗教指導者）であるT.タジュッディンの発案により、ボルガルで「聖ボルガルの集い Изге Болгар жыены」[16]が開催された。以降毎年の恒例行事となり、6月にタタルスタン内外から多くの参加者を集めて行われるようになった。[17]

そこでは、タジュッディンの指揮下での集団礼拝を中心に、クルアーン朗唱や個々人でのアッラーへの祈祷が行われる。さらに、その傍らでは聖者の墓地とされる石などに供物が置かれ、祈りを捧げる光景が広がる。この行事への参加者は年々増加し、2000年代を迎えるころには数千人もの参加者を得るまでになった。各地のモスクでは予めその告知がなされ、集団でバスに分乗してボルガルに乗り込むケースもある。

この行事は、タタルスタンがロシアにおけるイスラームの中心であることを主張すると同時に、ムスリムがその大半を占めるタタールにとって、民族としての存在感を示す場ともなっている。実際、タタルスタン外に居住する多くのタタールがここに参集し、タタール語が共通語として積極的に使用されている。

こうしたタタール／イスラーム復興と並んで、ロシア全土で活発となったロシア正教復興の動きが、タタルスタンにも波及した。スヴィヤシスクでも、精神病院などとして使われていた諸施設が、順次修道院へと返還された。しかし、孤島の中のほぼ唯一の働き先であった病院の閉鎖は、経済的な困難を招き、人口流出を引き起こすこととなった。1989年にはおよそ750人の住民がいたが、1997年にはその数は300人弱にまで減少した。多くの建物は事実上、夏季に一時的に居住する別荘として用いられているにすぎない。また、学校も閉鎖が危ぶま

---

15 ムスリム宗務局 Духовное управление мусульман とは、帝政期のオレンブルグ・ムスリム宗務協議会Оренбургское мусульманское духовное собрание を前身とする制度で、管内のムスリム諸組織を統括する機関とされる。ソ連期には4つの独立した宗務局（ソ連ヨーロッパ部及びシベリア、中央アジア及びカザフスタン、ザカフカス、北カフカス）が置かれていた。しかし、ソ連崩壊に伴い分立・再編が進み、タジュッディン率いるソ連ヨーロッパ部及びシベリア・ムスリム宗務局がロシア及びCISヨーロッパ部ムスリム中央宗務局と改称した。これに対し、有力なイマーム（教導者）であったP.ガイヌッディンは、独立してロシアヨーロッパ部ムスリム宗務局を設立した。さらに、タタルスタンやバシコルトスタンでも独立した宗務局が設立された。ガイヌッディンは後に、それらを統括するムフティー評議会を設立し、自らがその議長を務めている。これらは、連邦や各共和国の政府とも関係を持ちつつ、管内のムスリム団体を指導・統括している。

16 「ジエンжыен」とは、「集まり」を意味するタタール語の単語であるが、同時にかつてカザン・タタールの間にあった村落単位とそのそれぞれで行う夏季の祭りも意味している。しかし、すでに19世紀末からこうした習慣は廃れ、ソ連期には春の祭りとして知られていたサバントゥイと一体化されることとなった。

17 ブルガールのイスラーム受容は5月であったとされるが、気候が良く人々の集まりやすい6月がこの行事の執行する時として選ばれている（И.о.муфтия РТ：«На джиен в Болгары соберется не менее 20 тысяч мусульман» // Татар-информ 2011.04.03. [http://www.tatar-inform.ru/news/2011/04/03/264335/]（2012年2月6日現在閲覧可能））。

図 3：ウスペンスキー修道院内のフラスコ画

れる状態へと陥った。河の中に浮かぶ孤島となったため、基本的なインフラの整備も滞っており、電気こそ整備されていたものの、ガスが供給されたのは2007年だった。

しかし、孤島として周囲の変化から置き捨てられていたため、古くからの街並みや建物が保存された。洗礼者ヨハネ女子修道院の敷地内にある聖三位一体教会は、16世紀のスヴィヤシスク創建当時の状態にあった。2002年に大規模な改修工事が行われ、かつての木材などは全面的に取り替えられ、構造も変更されたが、この規模の木製の教会は、ヴォルガ中下流域では珍しく、貴重な史跡となっている。また、ウスペンスキー修道院の敷地内のウスペンスキー大聖堂には、やはり16世紀当時のフラスコ画が保存され、美術史の観点からも貴重なものとして注目されている。[18]

このような貴重な正教施設が残った地として、スヴィヤシスクは、改めてタタルスタンにおけるロシア正教の重要な拠点の一つとなった。同時に、タタルスタン内におけるロシア文化の中心地としても認識されるようになる。2007年の 5 月には、連邦が定めた「ロシア語の年」にちなんでロシア文化祭が開催され、プロ・アマのアンサンブルによる伝統歌謡の演奏が行われた。[19]

このように、ボルガルとスヴィヤシスクは、イスラーム／タタール文化と正教／ロシア文化を象徴する場所として今日のタタルスタンにおいて重要な地位を確立している。同時に、この両者はタタルスタンにおけるヴォルガ・カマ流域の主要な文化・観光資源としての発展も期待されている。

1998年、シャイミエフ大統領率いるタタルスタン共和国政府は、カザン・クレムリンとこの2つの史跡について、ユネスコの世界遺産への登録を求める申請を行った。[20] この結果、2000年にカザン・クレムリンは世界遺産として認定され、、ボルガルとスヴィヤシスクは保留された。ただし、2007年にやはりユネスコの「人間と生物圏計画 Man and the Biosphere Programme 」[21] に則って設定された「大ヴォルガ・カマ生物圏保護区 Great

18 2008年から、毎年タタルスタン共和国美術館の支援の下、カザン神学アカデミーやモスクワの美術館、大学関係者が参加して、「スヴィヤシスク報告会 Свияжские Чтения 」が開催され、その美術史的、宗教史的な価値について広くアピールすることが進められている（В Свияжском Свято-Успенском монастыре во второй раз пройдет научно-богословская и историко-художественная конференция «Свияжские Чтения» // Русская Православная Церковь: Официальный сайт Московского Патриархата [http://www.patriarchia.ru/db/text/715735.html] （2012年 1 月25日現在閲覧可能））。

19 Свияжск примет фестиваль русской культуры // Министерство культуры Республики Татарстан [http://mincult.tatarstan.ru/rus/index.htm/news/4878.htm?highlight=%D0%B3%D0%BE%D0%B4%D0%B0] （2012年1月25日現在閲覧可能）.

20 Болгар и Свияжск ждут экспертов ЮНЕСКО // Минтимер Шарипович Шаймиев: Первый Президент Республики Татарстан [http://shaimiev.tatar.ru/pub/view/10722] （2012年 1 月25日現在閲覧可能）.

21 1971年に、ユネスコの自然科学局の中の政府間国際事業として始められた計画。生物圏における

Volzhsko-Kamsky Biosphere Reserve 」の一部として、スヴィヤシスクと、ボルガルをその範囲に含むスパスクが登録されている。登録に当たっては、この地域が多民族・多宗教の共存を達成している点も評価の対象となった。[22]

また2006年に、モスクワを中心にして設定されている現行の「黄金の環」に加えて、ロシア連邦全体を射程に入れた「大黄金の環」構想が提起された際には、タタルスタン共和国から推薦する場所として、ボルガルとスヴィヤシスクが挙げられ、視察が行われた。[23] その翌2007年には、タタルスタン共和国文化省の決定として、カザン、エラブガ[24] と並ぶ観光地としてボルガル、スヴィヤシスクを発展させていくことが確認された。そして、双方の発展に関する構想が発表され、観光業・宗教的巡礼の発展、投資の誘致が目指されることとなった。[25]

ボルガルでは、先述の「聖ボルガルの集い」が、共和国の公式な催しとなった。それにより、賓客として共和国大統領や首相、国会議長が参加するようになり、ロシア国内外からの一般の参加者も増加した。この様子は大々的に宣伝され、「ヴォルガのメッカ」が目指されている。[26]

スヴィヤシスクについては、連邦大統領 Д.メドヴェージェフの指示により、ロシア連邦予算からその復興に対して金銭的な援助がなされることとなった。

この両史跡のさらなる発展を狙ったのが、シャイミエフによる「復興」プロジェクトである。

## 3. シャイミエフの「復興」プロジェクト

タタルスタン初代大統領シャイミエフは、ソ連崩壊前後より20年にわたりタタルスタンを指導し、共和国が連邦内で傑出した地位を確保するのに成功してきた。特にタタールの間では、その貢献を称え「おじいさん бабай 」とも呼ばれてきた。しかし、2008年にメドヴェ

---

自然資源の保全・有効利用及び環境の保護に関する諸問題の解決に資することを目的に、研究・研修・知識普及を国際的に実施するものであり、この計画に基づいて、「生物圏保護区」が設けられる（「社団法人日本ユネスコ協会連盟」[http://www.unesco.or.jp/contents/isan/glossary.html]（2012年1月25日現在閲覧可能））。

22 Свияжский и Спасский заказники (Татарстан) получили сертификаты ЮНЕСКО // REGIUM информационное агенство. 2008.04.28. [http://www.regnum.ru/news/993010.html]（2012年1月25日現在閲覧可能）.

23 Болгар и Свияжск войдут в Большое Золотое Кольцо России (Татарстан) // REGINUM: информационное агентство. 2006.09.15. [http://www.regnum.ru/news/705732.html]（2012年 1 月24日現在閲覧可能）.

24 カマ河沿いに位置する町で、11世紀初めにブルガール国家の城塞として建設された。その後、ロシアの支配下になった後はロシア人の入植が進み、18世紀には市として認められた。風景画で有名な И.シーシキンの出身地としても知られている。また第 2 次世界大戦時には収容所が作られ、シベリアに抑留された日本人もここに収容された（川上浪治『ノンフィクション エラブガ物語』樹芸書房、1993年）。

25 Доклад Заместителя Премьер-министра – министра культуры Республики Татарстан Валеевой Зили Рахимьяновны на итоговой коллегии Министерства культуры Республики Татарстан. 2008.02.05. // Министерство культуры Республики Татарстан [http://mincult.tatarstan.ru/rus/index.htm/news/10822.htm?highlight=%D0%B3%D0%BE%D0%B4%D1%83]（2012年 1 月26日現在閲覧可能）.

26 *Ахметзянова А.* Болгар готов стать Волжской Меккой // Казанские ведомости. 2011.06.21. [http://www.kazved.ru/article/34966.aspx]（2012年 1 月19日現在閲覧可能）.

ージェフが大統領になって以降、バシコルトスタンの M.ラヒモフなど、長期にわたって連邦構成主体を牛耳ってきた地方首長の交代が相次いだ。そうした中、シャイミエフも 4 期目となる2005年以来の任期が2010年の 3 月に切れることとなった。そこで、統一ロシア・タタルスタン共和国支部は、共和国与党として、シャイミエフと連邦首相P.ミンニハノフ、共和国議会議長 Φ.ムハメトシンを次の大統領候補としてメドヴェージェフに推薦した。それを見届けたシャイミエフは、2010年早々にメドヴェージェフを訪れ、高齢と多選を理由に、次期大統領候補を辞退する旨を伝えた。こうして、ミンニハノフが2010年 3 月から第 2 代タタルスタン大統領を務めることとなった [27]。

しかし、ミンニハノフは就任後、シャイミエフを大統領顧問として登用し、共和国議会に特別の席を用意した。こうした地位の確保と並行して、シャイミエフが力を入れたのが、ボルガルとスヴィヤシスクを中心に、共和国内の文化・歴史財の保存・発展を目指す「タタルスタン共和国歴史文化遺産復興財団」（以降「財団」）の活動である。

シャイミエフは、まだ大統領在職中であった2010年 2 月、大統領令によってこの「財団」を設立した。シャイミエフは「財団」の創設者となり、自らその資本となる資金を提供した。さらに、目的に応じて共和国から予算を割り当てるほか、共和国内外の個人・法人からの寄付も募り、その活動に充てることとなった。

「財団」の目的としては、以下のものが挙げられている。

1. ボルガル歴史建築博物館保護区の保存・再建・修復、建築芸術面での国立歴史建築及び芸術博物館「スヴィヤシスク島市街」、その他歴史・考古・建築・都市建設・芸術・美学・民族学・人類学・社会文化の観点から価値のある文化財（施設）の復興、及びそのために不可欠な財政資源の準備
2. タタルスタン共和国の文化遺産の普及
3. 社会の文化レベル向上を目指す活動への協力
4. タタルスタン共和国の学術的・文化的・知的・観光面の潜在能力確立への協力 [28]

この活動は早々に進められていき、2010年の 4 月には、新大統領ミンニハノフも出席した会議の中で、ボルガル、スヴィヤシスク双方の具体的な建築構想が明らかとなった。

ボルガルは、河港及び係留所周辺、駐車場付きの催し物会場、ボルガル保護区外の建築物群の 3 つのエリアに分けて計画されている。そして、河港・係留所区域では、港の整備を徹底するとともに、港湾施設内にブルガール文明博物館を設置する案が提出された。一方、バス等陸上交通機関用に、9 ヘクタールの広大な駐車場が整備され、バス運転手用休憩所が整備されることとなった。メインとなる建築物群の中でも目玉とされたのが、パン博物館

27 *Гордеев Я.* Пенсионные планы Минтимера Шаймиева: президент Татарстана вспомнил о походе Ивана Грозного на Казань // Независимая газета. 2010.01.25. [http://www.ng.ru/regions/2010-01-25/2_shaimiev.html] （2012年 2 月 1 日現在閲覧可能）.

28 Устав некоммерческой организации «Республиканский Фонд возрождения памятников истории и культуры Республики Татарстан» // Республиканский Фонд возрождения памятников истории и культуры Республики Татарстан [http://yanarysh.tatarstan.ru/rus/about/ustav.htm] （2012年 1 月26日現在閲覧可能）.

музей хлеба である。シャイミエフによれば、これはブルガールが定住民であり、農耕を行なっていたことにちなんでいるという。ここでは、パンの製造過程が紹介されると同時に、敷地内に陶器工房や厩舎、サバントゥイ[29] を開催するためのマイダン（広場）の設置が計画に入れられた。さらにここには、ロシア北部におけるイスラーム受容記念碑も作ることが決定された。

一方スヴィヤシスクについては、まず河港と係留所の整備、バス・ターミナルの設置が最優先とされた。河港は18世紀風の装飾を施したレンガ造りの建物が計画され、ボルガルと同様に、内部に博物館が設置される予定である。さらに、こうした観光事業と並行して、電気・ガス・水道の設置など住民向けのインフラ整備もプロジェクトに組み込まれた。加えて、移住者を呼び込むための、新たな住居建設計画も言及されている。

このような計画の内容からは、観光振興策や都市開発に力を入れた世俗的なプロジェクトという印象を受ける。しかし同時に、荒廃した 2 つの史跡を復興し、聖性を回復して、後世に伝えることが最重要課題として強調されている。[30]

7 月には、ボルガルに新しいモスクを建設する計画が公表された。これはパン博物館の隣に置かれ、マドラサ（イスラーム学院）やムフティーの応接場所としての機能も付与されることとなった。その設計は、カザン・クレムリン内のクル・シャリフ・モスクの設計にも携わった建築家に委ねられ、3階建てで最大200人を収容できる設計案が提出された。[31]

さらに 8 月には、スヴィヤシスク内に馬小屋レジャーパーク Конный двор を作り、子供向け乗馬場を中心に、観光客向けサービスを充実させた施設の建設計画が含まれることが明らかとなった。[32]

その後、同年10月には共和国レベルでの複合プロジェクトとして「文化遺産：スヴィヤシスク島市街、ボルガル（2010-2013年）」が承認された。その会議の場では、共和国文化大臣の 3. ヴァレエヴァによって、「施設の状態の改善、社会的なアクセスの保障、居住環境の整備、観光業の発展の下地づくり」が、目的として挙げられた。そして、推進される事業として、文化遺

**図 4：ボルガル・モスク完成予想図**

29 タタール語で「犂の祭り」を意味し、もともとは初春に行われていたが、ソ連当局の指導により 6 月に開催されるようになった。現在ではタタールの民族的な祭りとして、タタルスタン各地で開催されるほか、タタールが居住するロシア内外での実施に対しても、共和国ぐるみで支援が行われている。

30 *Чеснокова Е.* Болгар и Свияжск: начало возрождения // Республика Татарстаню 2010.04.27. [http://www.rt-online.ru/aticles/rubric-68/96439/] （2012年 1 月27日現在閲覧可能）.

31 Президенту Татарстана презентовали проект комплекса мечети в городе Болгар // Татар информ. 2010.07.26. [http://www.tatar-inform.ru/news/2010/07/26/229242/] （2012年 1 月30日現在閲覧可能）.

32 В Казанском Кремле представили проект комплекса зданий Конного двора на острове-граде Свияжск // Татар-информ. 2010.08.28. [http://www.tatar-inform.ru/news/2010/08/28/234259/?print=Y] （2012年 2 月 5 日現在閲覧可能）.

産の研究、歴史・文化遺産保存の保障、文化・学術施設の基盤強化、インフラ整備の 4 分野が指定された。

これらを実行するために、30億ルーブル超の出費が見込まれ、「財団」で集められた献金のほかに、連邦と共和国の予算からの拠出が予定されている。順次計画は実行され、両河港の工事などが始まった。さらに、調査活動の一環としての考古学的発掘調査が行われ、ボルガルでは、13世紀のバトゥ・ハン時代の宮殿跡が発見された。こうした作業の傍らで、両史跡への観光客は順調に増加し、2009年から2010年にかけ、スヴィヤシスクで2851人から8255人、ボルガルで 2 万1674人から 4 万9528人となった。(33)

これらの事業は順調に進められており、2011年の10月30日にはスヴィヤシスクで、かつて収容所があったことに鑑み、ボリシェヴィキに迫害された人々を追悼するための記念碑が完成し、除幕式が行われた。(34) 一方のボルガルでは、プロジェクトの進捗を通じて「聖ボルガルの集い」に対する人々の関心がさらに高まり、2010年には 1 万人を超える人を集め、2011年には 2 万6000人とも言われる多くの参加者を得た。そして、2011年にはこの集いに合わせて、サハーブの一人が葬られているとされる場所に作られた記念碑の除幕式も行われ、ボルガルがイスラーム受容の地であることが広くアピールされた。(35)

また、保留状態にあるユネスコの世界遺産登録にも期待が高まっている。2012年の 6 月から 7 月にかけて、ユネスコの総会がサンクト・ペテルブルグで行われ、途中カザン訪問も予定されていることから、ボルガルとスヴィヤシスクの価値を宣伝する準備が進められている。そして、国際的な基準に照らして、両史跡の保存・復興事業を進めていくべきことが強調されている。(36)

さらに献金についても、順調に集めることに成功し、共和国内の石油事業を取り仕切る「タト・ネフチ」を始めとする大企業や、大統領ミンニハノフら著名人が積極的にこれに参加した。(37) さらに連邦初代大統領 Б.エリツィンの夫人ナイナが100万ルーブルの寄付を行い(38)、海外からはサウジアラビア政府が、ボルガル復興に当てて100万ドルの寄付を申し出た。(39)

---

33 Утвержден комплексный проект «Культурное наследие – остров-град Свияжск и древний город Болгар» на 2010-2013 годы. // Минтимер Шарипович Шаймиев: Первый Президент Республики Татарстан [http://shaimiev.tatar.ru/news/view/79094] （2012年 1 月27日現在閲覧可能）；*Аямнова В.* Свияжск и Болгар: возрождение святынь // Республика Татарстан. 2010.10.07. [http://www.rt-online.ru/aticles/rubric-69/100034/] （2012年 1 月27日現在閲覧可能）.

34 *Черепанов М.* Реабилитация скорби // Электронная газета Республики Татарстан Intertat.ru [http://intertat.ru/tt/iktisad/item/663-reabilitatsiya-skorbi/663-reabilitatsiya-skorbi.html] （2012年1月27日現在閲覧可能）.

35 *Лебедев А.* Духовная миссия Болгара // Республика Татарстан. 2011.06.21. [http://www.rt-online.ru/aticles/rubric-68/107708/] （2012年 1 月27日現在閲覧可能）.

36 *Лебедев А.* Свияжск и Болгар на пороге ЮНЕСКО // Республика Татарстан. 2011.10.07. [http://rt-online.ru/aticles/rubric-78/sviyazhsk_i_bolgar_na_poroge_yunesko/] （2012年 2 月 6 日現在閲覧可能）.

37 Книга благотворителей: Республиканского фонда возрождения памятников истории и культуры Республики Татарстан (древний город Болгар и остров-град Свияжск) // Республиканский фонд возрождения памятников истории и культуры Республики Татарстан [http://yanarysh.tatarstan.ru/rus/file/pub/pub_73482.pdf] （2012年 2 月 1 日現在閲覧可能）.

38 Наина Ельцина пожертвовала в фонд Минтимера Шаймиева миллион рублей // REGNUM: Информационное агентство [http://www.regnum.ru/news/1380955.html] （2012年 1 月24日現在閲覧可能）.

39 Саудовская Аравия выделит 1 млн долларов на возрождение города Болгар // Вечерняя Казань.

また、こうした大口の献金とは別に、携帯電話の SMS を通じて一口30ルーブルの寄付を行うキャンペーンが行われ、広く一般にも協力が呼び掛けられた。2010年の10月22日の時点で、ボルガル宛ての献金が1259件、スヴィヤシスク宛てが1046件寄せられた。[40]

このように比較的順調にプロジェクトは進行し、注目も増していった。もっとも、こうした関心は必ずしも肯定的な態度に限らず、プロジェクトの意義について異論も存在した。

## 4. 「正しい聖地」を巡って

プロジェクトを推進するに当たり、提案者であるシャイミエフは、ボルガルとスヴィヤシスクの復興を次のように位置づけ、多宗教共存の象徴としている。

> ボルガルとスヴィヤシスクの傑出した歴史・建築史跡の復興は、現在と将来の世代にとって大きな意義がある。こうした古跡の復興は我々の国家、共和国のすべての多民族からなる国民 многонациональный народ の精神性を豊かにするのに大きな貢献を示すだろう。一つの大地、ヴォルガの河岸に2つの宗教 ― イスラームと正教の平和的な共存の一例が示されるだろう[41]

実際、タタルスタンはタタールの民族復興に力を入れると同時に、ロシア人を始めとする他の民族にも配慮し、自らを多民族・多宗教の共存する空間としてアピールしている。ボルガルとスヴィヤシスク双方の復興は、こうした共和国の公式イデオロギーと合致している。

しかし、実際にはこうした「理想」は全面的には支持されていない。ロシアによるカザン征服、及びタタールらへの正教改宗政策の象徴ともいえるスヴィヤシスクの再建に取り組むことには、タタールの間に反発が見られる。作家で、1980年代から最も強硬に民族主義的な主張を続けてきた Ф.バイラモヴァは、タタール語新聞に載せた論文で、以下のように共和国の姿勢を批判している。

> もし（民族的、宗教的な精神が：筆者注）あれば、こうした役人たちは、（中略）カザンとタタールの国家を滅ぼすために建てられたスヴィヤシスクを新たに復興させることに奔走することもないだろう[42]

また、毎年10月15日に行われている、ロシアによるカザン・ハン国制圧の歴史についての

---

2011.05.31. [http://www.evening-kazan.ru/news/saudovskaya-araviya-vydelit-1-mln-dallarov-na-vozrozhdenie-goroda-bolgar.html] （2012年 1 月27日現在閲覧可能）.

40 Всероссийская благотворительная – SMS акция «Болгар-Свияжск» // Министерство промышленности и торговли. [http://mpt.tatarstan.ru/rus/info.php?id=203723] （2012年 1 月27日現在閲覧可能）

41 В правительстве РТ прошло совещание по вопросам возрождения культурного наследия острова-града Свияжск и города Болгар // Православие в Татарстане: Информационно-просветительский сайт Казанской епархии Московского Патриархата Русской Православной Церкви [http://kazan.eparhia.ru/news/2010/?ID=22974] （2012年 1 月27日現在閲覧可能）

42 *Бәйрәмова Ф.* Русия безнең илме? // Безнең гәҗит. 2011, №5. [http://beznen.ru/basma/2011-05/rusiya-beznen-ilme/] （2012年1 月28日現在閲覧可能）

デモに参加した人々の中からは、スヴィヤシスクの教会復興が「タタールを侮辱するものではないのか？モスクワとロシア人にへつらうことになるのではないか」として、シャイミエフを批判する声も聞かれた。[43]

このような批判がある中で、スヴィヤシスクの起源をイヴァン雷帝の到来以前に遡らせ、タタールの歴史の中に肯定的に位置づけようという試みが行われている。やはりタタール民族運動の中心をかつて担い、シャイミエフの下で長く政治顧問としても働いたP.ハキーモフは、インタビューの中でスヴィヤシスクの復興について「スヴィヤシスク島には、ブルガール、ジョチ・ウルスの時代にも（発掘物が：筆者注）ある」と、イヴァン雷帝が来る以前に、タタールの祖先が活動していたことを強調している。[44] 実際、彼が所長を務めているタタルスタン科学アカデミー歴史学研究所の研究員たちは、スヴィヤシスクの考古学発掘調査を積極的に進め、16世紀以前の遺物の発掘に力を注いでいる。[45]

こうした動きに対し、ロシア人はスヴィヤシスクにモスクが建てられるのではという危惧を持った。その可能性についてシャイミエフらは明確に否定し、ロシア正教文化を象徴する町として維持することが約束された。[46]

スヴィヤシスクをロシア正教都市として復興させることについて、ロシア人、ロシア正教会からはおおむね歓迎の姿勢が見られる。カザン大司教アナスターシーは、2011年の9月に行われた修道院施設の竣工記念式典に出席した際に、以下のように発言し、これを梃子に人々の信仰心が喚起されることへの期待を示している。

> （スヴィヤシスクの：筆者注）すべてが一新された。これは、タタルスタン大統領、政府及び多くの投資家の支援のおかげである。しかしこれは始まりに過ぎない。島が復興し、ここには観光客のみならず、巡礼者も訪れるだろう。[47]

しかし、ロシア人・正教徒の間にも、共和国が用意した計画に反対する人々が見られる。カザン・ロシア文化協会 Казанское общество русской культуры の代表や、1990年代からスヴィヤシスクの復興に従事してきた建築家のE.イグナチエフは、2007年に共和国政府により提出され、現行の計画の雛型ともなっている博物館化計画について、スヴィヤシスクの宗教的な中心としての地位の回復につながらないと批判する。彼らは、現状の計画では巡礼者を呼び込むことにはならず、島の通行の便とインフラの整備は、成金の別荘地開発に利するだけだという。また博物館の設立は、共和国関係者の経済的な利益に資するだけというので

---

43 Хетәр көнендә булдым // Безнең гәҗит. 2010, №44. [http://beznen.ru/basma/2010-44/heter-konende-buldim/] （2012年1月28日現在閲覧可能）

44 *Долгов С.* Рафаил ХӘКИМОВ: Дәүләтчелек татарның эчендә утыра // Tatar zamanı. 2011.03.16. [ http://www.tatartime.com/?p=270] （2012年1月28日現在閲覧可能）

45 В Свияжске (Татарстан) начали искать домонгольский период // REGNUM: Информационное агентство. 2010.07.16. [http://www.regnum.ru/news/1305509.html] （2012年1月28日現在閲覧可能）すでに、この歴史学研究所は、カザンの起源が1005年に遡れる証拠を「発見」し、2005年のカザン1000年記念祭を開催することを可能とした実績を持つ。

46 Строить мечети в Свияжске (Татарстан) не будут // REGNUM: Информационное агентство. 2010.07.22. [http://www.regnum.ru/news/1307236.html] （2012年1月28日現在閲覧可能）.

47 *Иванычева О.* Свияжск: возрождение продолжается // Казанские ведомости. 2011.09.06. [http://www.kazved.ru/article/36017.aspx] （2012年1月28日現在閲覧可能）

ある。[48]

こうした論争の余地はボルガルについても指摘できる。「聖ボルガルの集い」を主宰しているタジュッディンはインタビューの中で、「スヴィヤシスク島とボルガルを同時に再興することは、人々の精神を復興し、平和を保つことを助ける。ボルガルの大モスクのそばに教会があることは、アッラーの思し召しだ」とし、共和国のイデオロギーに従って、「復興」プロジェクトと、その目的である多宗教共生の意義を評価している。[49] 2011年に行われた、タタルスタン共和国内のモスク附属の教育機関の教師を集めた会議の中では、「学習過程において、古代都市ボルガル復興プロジェクトの実現に積極的に参加する必要性と、イスラームとタタール民族の伝統的価値の発展におけるその意義の宣伝に注意を向ける」[50] ことが、決議の中に含まれた。

しかし先述のバイラモヴァは、ボルガルの「復興」プロジェクトのあり方にも批判的な目を向けている。すなわち、「偉大なボルガルを観光で金儲けをする源泉」とすることに疑問を投げかけ、「歴史的な地にまず用意すべきなのは、観光客のためのトイレではなく、モスクを設置することである」[51] と指摘する。そもそも以前から、「聖ボルガルの集い」に対する批判はしばしば見られた。すなわち、ここに来る人の多くは、その意義について十分な理解をしておらず、集団で祈祷を行う場所とは別に、個々に思い思いの場所で願掛けを行っているというのである。さらに、祈祷以上に、周囲に展開している露店などにより多くの人が集まっていることから、宗教的な行事としての体をなしていないと批判する声も挙がっていた [52]。

こうした議論とは別に、ボルガルをタタールの聖地として特別視すること自体にも疑問が呈されている。タタールの歴史をどのようにとらえ、その祖先を誰に求めるのかについては、長きにわたって論争が続いている。すなわち、現在のタタールとブルガールのつながりを強調するのか、ジョチ・ウルスとの関係を重視するのかという点で見解が分かれている。そのうち、ブルガールを強調する見解が主流となったのはソ連期のことである。特に第 2 次世界大戦前後に、ソ連内におけるロシア人／文化の優位性が強調されるようになると、ロシアを支配下に置いていたジョチ・ウルスとの関係を強調することは忌避された。さらに、戦後には民族起源論が流行し、特に言語学者 H.マルの学説に依拠しつつ、各民族の「先住性 автохтонность 」が重視されるようになった。そして、タタールの祖先をこの地域に最初に定住したブルガールに求めることが公式なイデオロギーとされ、近隣のチュヴァシとその正

---

48 Владимира Путина просят о возрождении острова-градов в Татарстане // REGNUM: Информационное агентство. 2009.10.05. [http://www.regnum.ru/news/1211543.html] （2012年 1 月28日現在閲覧可能）

49 *Исхакый Ә.* Тәлгат Тажетдин: Болгар җыены дини рухын югалтырга тиеш түгел // Tatar zamanı. 2011.06.18. [http://www.tatartime.com/?p=1526] （2012年 1 月28日現在閲覧可能）

50 Резолюция Первого совещания преподавателей примечетских курсов Республики Татарстан // Духовное управление мусульман Республики Татарстан [http://dumrt.ru/node/1207] （2012年 1 月28日現在閲覧可能）

51 *Бәйрәмова.* Русия безнең илме?

52 *Газизуллина Р., Галимҗанова Г.* Изге Болгар җирендә җыен // Кәеф ничек? [http://www.kaefnichek.ru/post/view/152/2/1245] （2012年 1 月28日現在閲覧可能）; *Исхаков Д.М.* Джиен Священного Булгара // Конфессиональный фактор в развитии татар: конфессиональный исследования. Под ред. Д. Исхакова. Казань, 2009. С.190-191.

統性を争うまでになった。[53] こうしたイデオロギー的な傾向に対する反省から、近年ではタタールとジョチ・ウルスとの関係を再考しようという動きが活発となっている。

先に引用したインタビューの中で、ハキーモフは次のように、ボルガル遺跡とジョチ・ウルスの時代との関係を強調している。

> （ボルガルにある：筆者注）建物は、ジョチ・ウルスの時代にできたものだ。確かに、9-10世紀の遺物もあるが。今日残っているものは、バトゥ・ハンが作り始めた。彼は1236年に浴場、1239年にモスクと宮殿を作った。

さらに、「人々は理解しなくてはならない」と、広くこの事実を伝えるべきだと指摘している。[54] また、シベリアの都市トムスクのタタール青年組織の代表は、シャイミエフへの公開書簡で、「ボルガルの歴史記念碑は、13-14世紀に造られ、つまりジョチ・ウルスの記念碑となっている」とし、さらに「ブルガール中心主義は、タタール民族を分裂させ、貶めることになりかねない」という。すなわち「カザン・タタールは、領域の面からブルガールと多少なりともつながりがあるけれども、シベリアやアストラハンといった他の地域のタタール、ミシャリはブルガールとは何の関係もない」として、ロシア各地に分散しているタタールにとって、これが必ずしも民族としての結束を喚起するとは限らない、と指摘している。[55]

実際、ブルガールへの関心は、タタールの民族としての一体性について、大きな問題を引き起こしている。ソ連崩壊前後より、タタールが民族復興に取り組むようになるのと並行して、様々な小グループが、独自の民族としての認定を求めて運動するようになった。[56] その流れの中で、自らを「タタール」ではなく「ブルガール」と名乗る人々が現れたのである。彼らは当初は、パスポートの民族欄に「ブルガール」と記載することを求め、パスポートの民族欄がなくなると、今度は国勢調査の際に「ブルガール」という民族として記録されることを要求するようになった。「聖ボルガルの集い」でも、「我々はタタールではない！われらの祖国はボルガルだ！ボルガルの我々の父祖の精神を傷つけるな！（国勢調査では：筆者注）自分たちをブルガールと書こう！」というスローガンを唱えながら歩く人の姿があった。[57] 「復興」プロジェクトの中で、ボルガルが取り上げられていることは、こうした活動を助長し、再活性化するものと考えられている。[58] 実際、2011年の5月にカザンで第2回国際ブルガール・フォーラムが行われたことについて、自らは参加できなかったものの、国際ボルガル統一組織 международная Организация объединения болгар の代表Г.ハリルは、ボルガ

---

53 UYAMA Tomohiko, “From ‘Bulgharism’ through ‘Marrism’ to Nationalist Myths: Discourses on the Tatar, the Chuvash and the Bashkir Ethnogenesis,” *Acta Slavica Iaponica* 19 (2002), pp.163-190.

54 *Долгов.* Рафаил ХӘКИМОВ.

55 Бөек Болгар: берләштерерме, таракатырмы? // Безнең гажит. 2010, №44. [http://beznen.ru/basma/2010-44/heter-konende-buldim/] （2012年1月28日現在閲覧可能）

56 シベリアのタタールや、しばしば受洗タタールとも呼ばれるクリャシェンという集団が、特に国勢調査の際に、自分達を独立した民族として認めるよう積極的に運動を行った。2002年の国勢調査前後の動きについては、拙稿を参照されたい（櫻間瑛「『受洗タタール』から『クリャシェン』へ：現代ロシアにおける民族復興の一様態」『スラヴ研究』第56号、2009年、127-155頁）。

57 *Газизуллина.* Изге Болгар җирендә жыен.

58 *Мухаметзянов Х.* Татары, есть! // Идель. 2010. № 7. С.45.

ルの「復興」プロジェクトに期待を示し、以下のように発言している。

> こうしたフォーラムが行われたこと自体は、争いの余地なく肯定的なことである。〈中略〉大ボルガル Великий Болгар は、いかなる似非学術的プロパガンダにもまして、人々に真実を語るだろう。「タタール主義者」は、いずれにせよ真実からは逃れられない、ということを私は確信しているし、当局は既にそのことに気づいているだろう。[59]

もっとも、あくまでシャイミエフや共和国政府の立場は、タタールの統一を堅持することであり、ブルガールを独立した民族と主張することについては、「何人かの学術活動家が、自らの仮説や思弁のロビー活動をしているにすぎない」と一蹴する。[60] また、先に取り上げたトムスクからの書簡にも返事を送り、そこでシャイミエフは「ボルガルにある遺跡はジョチ・ウルスの時代に属すもので、ボルガルが繁栄した時代はジョチ・ウルス政府の初期であったことを認めた」という。そして、「ボルガルは、タタール統一の地であるべき」とし、書簡を送った青年にも「復興」プロジェクトに参加することを呼びかけたという。[61]

このように、「財団」による「復興」プロジェクトは、タタルスタンがタタールとロシア人相互の文化を尊重し、その共存を達成していることのアピールを目的としながらも、それが現実にはいまだ非常に困難な課題であることを示している。

## おわりに

2012年に入って早々、3 月に大統領選挙を控えた連邦首相B.プーチンは、新聞紙上にてロシアにおける民族問題についての論文を発表した。そこでは、諸民族・文化・宗教の同権を説きつつ、ロシア語とロシア文化を基調とした、国民／国家の一体性が強調された。[62] この論文で強調された通り、昨今のロシアでは、ロシア文化への関心が高まり、特にロシア語教育に力が置かれている。さらに、ロシア正教の祝日にはプーチンやメドヴェージェフが教会で祈りを捧げる姿がテレビで流されるなど、ロシア正教の実質的な国教化が進められている。

そうした中、ロシア国内の少数民族は、この流れに徒らに逆らうのではなく、両立する形で自分たちの存在をアピールする方法を模索している。タタルスタン共和国におけるボルガルとスヴィヤシスクの「復興」プロジェクトは、まさにその如実な例ということができる。

シャイミエフを始めとするタタルスタン共和国関係者にとって、ボルガルの「復興」は、ロシア化の進む国家の中で、タタールというムスリム／民族の存在をアピールする試みに他

---

59 В Казани «татаристы» рассуждали о болгарах без «булгаристов» // REGNUM: Информационное агентство. 2011.05.23. [http://www.regnum.ru/news/1407702.html] （2012年 1 月29日現在閲覧可能）

60 Первый президент Татарстана, госсоветник республики М. Шаймиев: «Недопустимо делать из переписи населения псевдонаучный эксперимент по дроблению народов» // Интерфакс. 2010.06.09. [http://www.interfax-russia.ru/Povoljie/print.asp?id=151412&type=exclusive] （2012年 1 月29日現在閲覧可能）.

61 *Долгов С.* Шәймиев Искәнәргә җавап бирде // Azatlıq Radiosı. 2010.11.03. [http://www.azatliq.org/content/article/2209674.html] （2012年 1 月29日現在閲覧可能）

62 *Путин В.* Владимир Путин. Россия: национальный вопрос // Независимая газета. 2012.01.23. [http://www.ng.ru/politics/2012-01-23/1_national.html] （2012年 1 月29日現在閲覧可能）

ならない。2010年、連邦政府は 7 月28日をロシアの正教受容の日として、連邦の公式な記念日とした。それに対しタタルスタン共和国政府は、5 月21日をブルガールによるイスラーム受容記念日とし、連邦単位での記念日とすることを要求した。[63] ここには、ロシアの中で正教と並ぶものとして、イスラームの存在を認めさせることと共に、タタールがその中核を担っていることをアピールする意図が見られる。こうした試みの中で、ボルガルはタタールの故地であり、イスラームの聖地として重要な意味を持っている。それと並んで、スヴィヤシスクの「復興」にも力を入れることは、ロシアとの共存を今後も持続していく意思表明と言うことができる。そして、シャイミエフは、その復興を主宰し、広く一般に募金などでの協力を呼び掛けることで、国父としての自らの地位を確固たるものとしようとしている。

また、この「復興」プロジェクトには、広くグローバルな文脈での流行の影響も窺うことができる。近年世界的に、ユネスコの文化遺産に対する注目が高まっている。両史跡についてもその認定を受けようという運動が盛んに行われている。ボルガルとスヴィヤシスクという、イスラームとキリスト教それぞれの聖地を押し出すことは、先例のカザン・クレムリンのように、ユネスコの標榜する「相互に容認」し、「調和的な差異の中で共存」するという、「複数主義」[64] を体現したものとしてアピールする試みといえよう。

さらに、この「復興」プロジェクトには、経済的な動機が存在していることも指摘できる。資本主義の進展とともに、「経済が文化（単数および複数）の象徴的価値の周りに再創造」され、かつ「経済生活において文化が中心的地位を占める」ようになっている。その最も顕著な例が観光である。[65] このプロジェクトの中でも、観光を促進することが重要な課題の一つとなっている。ボルガルのパン博物館や、スヴィヤシスクの馬小屋レジャーパークのような、およそ聖地には似つかわしくない施設の設置に、この意図が顕著に表れている。

このように、ボルガルとスヴィヤシスクは、今日のタタルスタンにとって、重要な資源となっている。すなわち、これらの史跡は、一方で国家の枠内、あるいは国際的な文脈の中で、タタルスタンの民族共和国としての価値を示す象徴をなし、他方で経済的な利益の源泉ともなっているのである。

しかし、こうした方向性は遍く共有されているわけではない。まず、タタールのかつての王朝とされるカザン・ハン国征服の前線であったスヴィヤシスクを、タタール自身の手によって「復興」させることについて、民族の歴史への裏切りとしての反発はやはり根強い。これに対して、スヴィヤシスクとタタールとの古来のつながりを「発見」することによって解消を目指す動きが出ている。

またボルガルについても、ブルガールをタタールの祖先とすることは、（結果的にしても）ソ連のイデオロギーと合致しており、抵抗を覚える人々がいる。さらに、ブルガールを強調することによって、ロシアを支配下においていた点で、「黄金時代」といえるジョチ・ウル

---

63 *Гордеев Я.* Казань предлагает новый общероссийский праздник – День принятия ислама // Независимая газета. 2010.06.09. [http://www.ng.ru/regions/2010-06-09/6_kazan.html] （2012年 2 月 1 日現在閲覧可能）

64 ジョン・トリンソン（片岡信訳）『文化帝国主義』青土社、1993年、145頁。

65 マイク・ロビンソン、メラニー・スミス（阿曽村邦昭訳）「第1章 政治、権力、遊び：文化観光の変わり行く背景」マイク・K・スミス、メラニー・ロビンソン編（阿曽村邦昭、阿曽村智子訳）『文化観光論上巻：理論と事例研究』古今書院、2009年、4 頁。

スとのつながりを軽視することになる、という危機感も生じている。加えて、タタールではなく、「ブルガール」と自らを名乗る人々の出現は、タタールという民族の存在の脆弱さも露呈させている。

ヴォルガ河は、古来より東西の文化・文明が交流し、時に衝突する舞台となってきた。その歴史の跡は、一方で現在の少数民族にとって、象徴的にも経済的にも重要な資源となっている。しかし他方で、そこに刻印されたロシアとの衝突とそれによる支配の歴史は、未だに払しょくされてはおらず、民族内部にまで論争を引き起こすこととなっている。特にロシア中央からの圧力の強まりつつある今日、そうした分裂は一層顕在化し、民族の存在意義と価値を再考することが強いられている。

**図 5：ボルガルの尖塔から見たヴォルガ**

## 図版出典

図1：Google マップより著者作成

図2：著者撮影（2008年 9 月21日）

図3：著者撮影（2009年 9 月17日）

図4：Перспективы развития // Болгарский государственный историко-архитектурный музей-заповедник [http://www.bolgar.info/perspektivy_razvitiya]（2012年 2 月27日現在閲覧可能）

図5：著者撮影（2008年 9 月21日）

**［付記］**

本稿の執筆に当たっては、科学研究費基盤研究 A「ヴォルガ文化圏とその表象をめぐる総合的研究」（代表望月哲男）による、ヴォルガ流域調査から多大な刺激を受けた。また資料面では、2008年度平和中島財団日本人留学生奨学生として、ロシア連邦タタルスタン共和国に2年間留学した際の調査に基づく。加えて法政大学大学院国際文化研究科修士課程の中村彌生さん、北海道大学大学院文学研究科博士後期課程の須田将さんにもご協力いただいた。ここで合わせて御礼申し上げたい。